

マルメ研修

杉田佳織

今回スウェーデン研修に参加したことは、私にとって衛生士としてだけでなく私の人生でもとても価値のある経験になりました。

正直なところ出発する前は、時差のことが心配で睡魔に襲われてしまうのではないかと心配していましたが、ダン・エリクソン先生をはじめ、歯科医療を動かす先生方のユーモア溢れる講義は内容が濃く、とても楽しく時差の心配はありませんでした。

今回、そんな先生方の講義を聞いていて感じたことは、日々私たちが勉強し、当たり前になっていた考え方と共通する部分が多くあったことをとても嬉しく思いました。

以前からなぜ日本の衛生士とスウェーデンではこんなにも違うのかと疑問に感じていました。それは日本とスウェーデンでの衛生士の教育方法の違いでした。

スウェーデンでは、教わるのではなく学生自身が調べ知識を得る、また、お互いにディスカッションをしてそこから新しい知識を得て自分のものにしていく PBL という方法でした。学生のころからこのような教育を受けているので、卒業してもこのトレーニングができているからこそ、様々な視点を持ち Dr と対等に意見を交換し合いチームとして歯科医療を作っているのだと感じました。スウェーデンの衛生士たちがとても大きな存在に感じました。

また、カリエスの進行速度や進行因子について、フッ化物、投薬と疾患の関係、糖の摂取、健康行動と口腔健康などさまざまな講義を聞きました。これらを通して感じたことは、私たちが追いかけるだけではなく、自分たちでも作っていくことが今後の課題だと感じました。そしてカリオグラムの使い方やメンテナンスの内容や食生活指導についても少し見直しが必要だと感じました。私たちは“アドバイス”を行っていましたが、患者さん自身に考えてもらうような“簡易介入”“動機付け”と、もう少し踏み込み患者さんの脳を育てるようなアプローチをしていこうと思います。

私自身、訪れたことのない世界に触れてみて、先生方の話はもちろん、スウェーデンの文化や歴史を感じる街、少しのんびりとした時間の流れや人に何か温かいものが残るようなかんじがしました。今回得たこの温かさを日々の診療に少しずつでも活かしていきたいと思えます。